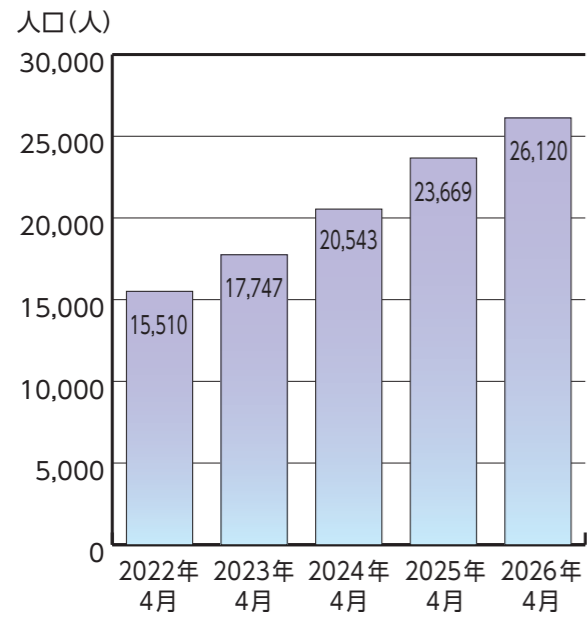


杉並区在住外国人の推移



杉並区の国籍別在住外国人数の推移 (上位10カ国・地域)

2022年 4月 (単位:人)		2026年 4月 (単位:人)	
国・地域	在住人数	国・地域	在住人数
1 中国	5,011	1 中国	8,104
2 韓国	2,342	2 ネパール	4,522
3 ネパール	1,938	3 韓国	2,925
4 ベトナム	1,210	4 ベトナム	1,936
5 台湾	756	5 ミャンマー	1,284
6 米国	738	6 台湾	1,085
7 フィリピン	485	7 米国	1,017
8 英国	275	8 フィリピン	599
9 フランス	233	9 インドネシア	470
10 ミャンマー	224	10 フランス	404

参加者募集! すぎなみ 日本語教室 第2回 「はじめてのにほんご」 Suginami Japanese class for beginners

日本語が話せない人・日本語を勉強したことがない人のための日本語教室です。日本語でかんたんな会話ができるように、一緒に楽しく学びましょう。

This is a Japanese class for people who cannot speak Japanese or have never had a chance to study it. Let's have fun learning Japanese together and practice simple conversations.



- 【日 時】** 2026年9月2日～2026年11月25日
毎週水曜日・金曜日 13:30～15:00 (90分)
- 【回 数】** 24回
- 【対 象】** 杉並区に住んでいる人、働いている人
在留カードを持っている人
16歳以上の人
日本語がはじめての人
24回通える人
- 【定 員】** 15名程度 (先着順)
- 【受講料】** 2,000円
- 【申込み】** 8月14日 (金) まで
 - ①QRコードから申込み
 - ②杉並区交流協会の窓口へ



申込フォーム
Application form
8月14日(金)まで



4月17日(金)から第1回「はじめてのにほんご」がスタートしました。9か国12名の受講者が、毎週水曜日と月曜日の午後に杉並区交流協会の会議室で交流しながら日本語の会話を練習しています。杉並区での生活に役立つ、ごみや防災関連の活動もあり、明るく楽しい雰囲気です。

Event Information from SACE

交流イベント情報

QRコードから
ご覧下さい。



すぎなみ交流ニュース

第81号
2026年7月

Suginami Cultural Exchange News



스기나미 교류 소식
杉並的交流消息

発行：一般財団法人 杉並区交流協会

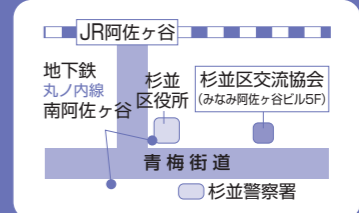
[Suginami Association for Cultural Exchange (SACE)]

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階

[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail : info@suginami-kouryu.org

<https://suginami-kouryu.org/>

◆年4回発行◆ 協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。



目次

- 水防訓練 ほか 2
- 青梅市バスツアー ほか 3
- 在住外国人の推移 ほか 4

子ども日本語小学生教室の絵本活動



2023年1月より、区内の公立小中学校に通う外国につながるを持つ児童・生徒を対象に、ボランティアが日本語学習の支援を行っています。2026年5月20日現在、小学生教室は計21名、中学生教室は計26名、合計47名(国籍:ネパール、中国、フィリピン、タイ、モンゴル、ニュージーランド)の子どもたちが毎回元気に教室に来て、日本語を勉強したり活動をしています。

小学生教室では(公財)伊藤忠記念財団の「2024年度子どもの本100冊助成」により届いた絵本を活用して、日本語に親しむ活動を積極的に行っています。ボランティアが読み聞かせたり、子どもと一緒に読み進めたりしながら、楽しい時間となっています。音読が苦手な子どもも、好きな絵本なら読むことができたり、絵本で日本語のこぼれを覚えたりしています。絵本を読んだら、図書カードにタイトル、作者、どんな本だったか、どこがおもしろかったかを記録しています。裏表紙には、1冊ごとにお気に入りのシールを貼ります。本が好きな子にとっては、図書カードが増えていくことが、自信につながっているようです。

最近は絵本を通して、ボランティアと子どもたちが対話をしながらお話を楽しむ活動もしています。ボランティアがこれからすることを説明してから、絵本を1回読みます。「後で、お話に

ついて質問をするよ」と聞いた子どもたちは、興味津々で聞いています。質問は登場人物の出てきた順番を思い出して当てるものや、絵本の1場面を見て、次に何をしていたか答えるもの、絵本の登場人物の気持ちを想像して話し合うものなど、わいわい賑やかな活動です。参加する子どもの学年や日本語のレベルに合わせて工夫をして実施しています。絵本を利用した活動は小学生教室にとって、なくてはならないものになってきました。

(地域日本語教育コーディネーター 永田晶子)



絵本活動1 「次にするのはどの子かな？」



図書カード



絵本活動2 「この女の人はどんな人？」

地域とつなぐ防災 杉並区合同水防訓練

大雨の季節に備え、5月23日(土)、「杉並区合同水防訓練」が実施され、区立下高井戸おおぞら公園に区や消防署、消防団、町会、ボランティアなど約170名が集まりました。ベトナム、インドネシア、アメリカ、カナダ国籍の杉並区在住外国人13名も「体験コーナー」で豪雨体験や水圧ドア体験、土のう積み・消火器操作を体験し、当協会ではベトナム語・インドネシア語・英語の通訳ボランティアを派遣して語学面でのサポートを行いました。



参加者と通訳ボランティア

バケツをひっくり返したような激しい音と水の勢いに、思わず首をすくめた豪雨体験。脱出しようとしても、水圧でなかなか開けられないドア。慣れない国に来ている在住外国人にとって、大雨が降ったらどうなるのか、どう行動したらいいのか、地域防災への関心と理解を深める良いきっかけになりました。参加した在住外国人からも「留学生として日本に来てまだ日が浅いため大雨を体験できてよかった。訓練も見られて勉強になった。雨に備えて長靴などを揃えたい。」という頼もしい感想が聞かれました。また、外国人従業員10人が参加した区内の会社の方からは、「これからも防災支援に取り組みたいし、地域住民とともに協力する機会があれば参加したい」と語っていました。(広報S)



1時間に200mmの豪雨体験

聞かれました。また、外国人従業員10人が参加した区内の会社の方からは、「これからも防災支援に取り組みたいし、地域住民とともに協力する機会があれば参加したい」と語っていました。(広報S)

杉並消防署 外国人のための防災訓練

6月4日(木)、エベレスト・インターナショナル・スクールの小学6年生28名が杉並消防署で防災訓練を受けました。実際に119番に電話をかけたり消火器を使ったり、起震車で地震を体験しました。どれも子どもたちには初体験。消防署職員や通訳ボランティアなど多くの大人たちが連携してプログラムを進める様子も印象に残ったことと思います。最後にモバイル・バッテリーの発火を防ぐうえで気をつけることと、杉並区防災マップで「もしものとき」の避難場所と救急病院の場所を確認しました。「今日学んだことをご家族に伝えてくださいね」という消防署からのお願いに、家族を含めると100名以上にこの情報が伝わるのだと気づきました。子どもたちが目を輝かせて家族に報告する様子が思い浮かびます。なお、杉並消防署では119番の外国語対応を行な

ているほか、杉並区では多言語で防災マップを作成しています。必要な方にご紹介ください。(広報TS)



今回の防災訓練では、すぎなみ版ボランティア「TEAM NAMISUKE」(チームナミスケ)に登録している語学ボランティアの皆さんが通訳として活躍しました。

杉並区×小千谷市 日本フィルハーモニー交響楽団

5月24日(日)から26日(火)にかけて、杉並区と友好提携を結んでいる日本フィルハーモニー交響楽団が、交流自治体である新潟県小千谷市を訪問しました。市内の小学校・中学校、市民会館、そして2024年にオープンしたひと・まち・文化共創拠点「ホントカ。」※で演奏を行いました。小千谷市での公演は2014年以来12年ぶりとなり、最終日の市民会館は満席となりました。合計878人の方にご参加いただき、初めて生の演奏に触れる児童、生徒や市民の方も多く、どの会場でも「とても感動した」との声が寄せられました。市民の皆さんが楽しそうに参加され、音楽を通じた温かい交流の場となりました。

杉並区と小千谷市は「災害時相互援助に関する協定」を締結しており、区内には「小千谷学生寮」も設置されています。また、杉並区役所などでは小千谷市の特産品販売も行われるなど、さまざまな分野で交流を深めています。



※2024年9月に開館し、図書館機能に加えて郷土資料館、市民活動スペース、子どもの遊び場が一体となった複合施設です。



外国人の地域参画企画 「青梅市バスツアー」

地域に暮らす外国人住民の地域参画を促進する取り組みの一環として、「青梅市バスツアー」を5月9日(土)～10日(日)に実施しました。ツアーには区内在住の日本人10名・外国人9名・企画コアメンバー3名の計22名が参加し、青梅市の自然や文化に親しむ機会となりました。

当日は、青梅の豊かな自然を感じながら農業体験やラフティング、昭和に最盛期を迎えた青梅夜具地(青梅で織られていた布団用の木綿織物)を使ったワークショップを行いました。参加者の皆さんは、地域の歴史や生活文化について理解を深めるとともに、日常とは異なる環境での体験を楽しんでいました。また、参

加者同士の交流の時間も設けられ、言語や文化の違いを越えたコミュニケーションが生まれていました。

区の担当者は「こうした体験を通じて地域への愛着を深めていただき、外国人住民の方にも主体的に地域活動へ関わっていただきたい」と話しています。参加者からは「日本の魅力を改めて実感できました」「地域の方々と交流できて良い経験になりました」といった声が寄せられました。

杉並区では今後も、外国人の社会参画に向けて、子ども食堂や町内のイベント、交流自治体の物産展など、杉並区内のイベントに関わっていただく取組を引き続き進めていきます。(杉並区文化・交流課)



ラフティング



集合写真(青梅夜具地を用いて作成したうちわ)

大宮小学校 Education Festa

5月30日(土)、杉並区立大宮小学校にて、第3回「学び×祭り～Education Festa～」が開催されました。本イベントは、子どもから大人まで、また多様な国籍の人々が一体となり、地域の中で「多文化共生」について楽しみながら学ぶことを目的とした体験型イベントです。

会場には、「日本の文化と世界の文化」を比較しながら体験できる多彩なブースが設けられていました。

杉並区文化・交流課と杉並区交流協会は、パラスポーツであるポッチャ体験と台湾夜市あそびのコーナーを出展し、輪投げやビン釣り、ピンポンなどのゲームを実施しました。そのほかにも、各国の文化や習慣を学ぶことができるカードゲームのブースなどが設けられ、子どもたちはスタンプラリーをしながら各ブースを巡り、多文化への理解を深めていました。

日本文化を体験するプログラムとしては、和太鼓ワークショップが開催されました。ワークショップでは9台の長胴太鼓を使用し、参加者は講師

の塚本氏の演奏を手本にしながら力強く太鼓を打つ体験を行いました。子どもから大人まで幅広い年代が参加し、太鼓の迫力ある響きを全身で感じながら、日本の伝統文化に親しむ機会となりました。(広報T1)



ポッチャ体験と台湾夜市あそび ボランティア